

嘘も誠も人の道

福岡に新しい年の始まりを告げる太宰府天満宮の神事に「うそ替え」「鬼すべ」がある。その年の災難除け、開運を願う神事には、人の性^{さが}が多分に反映されているようである。大小さまざまな嘘、心の中に巣くう鬼は、企業経営の未来をも左右する。



戸村 智憲

日本マネジメント総合研究所
合同会社
理事長

2つの神事にこめられた思い

新年1月7日、「替えましょ、替えましょ」の掛け声のもと、暗闇の中で木彫りの鸞^{うさぎ}を交換し合う、太宰府天満宮の神事「うそ替え」。知ってか知らずかのうちについた嘘を天神さまの誠心に替え、これまでの悪いことを嘘にして本年の吉に転ずるといふ神事です。

太宰府天満宮では同日、勇壮な火祭り「鬼すべ」も行われます。炎と煙で災難や心の中の鬼をも追い出す神事です。

この2つの神事は、福岡の年始の風物詩でもあります。このように嘘を誠に替えたい、あるいは心の中の鬼を退治したいと願うのは、裏を返せば、人の良心あればこそでしょう。では、企業経営にも巣くう嘘や心の中の鬼を自浄するためには、どういうことに気をつけておくべきでしょうか。

嘘でもまことでもない 接し方の工夫

近松門左衛門の説く「虚実皮膜^{きょじつひふにく、ひまく}」は、真実は

嘘とまことの絶妙なはざまにある、というものです。

例えば、社長の服のセンスがかなり悪く、部下としてはお世辞（嘘）にも「社長、カッコいいですね」とは言い難いものだったとします。しかし、逆に真実をそのまま伝えて、「社長の服装はダサいですね」と言うのははばかられるでしょう。

そのような時には、嘘でもまことでもなく、「社長はユニークなセンスの持ち主ですね」などと言えば、カドが立たず、嘘もつかないですみます。思いやりあればこそ、嘘でもまことでもない接し方の工夫が、人の世の潤滑油として求められる場合があります。

一方で、心の中の鬼が暴れて起こす、粉飾決算や脱税、商品やサービスの虚偽表示などの嘘、そして各種のハラスメントなどは退治しなければなりません。

企業が健全に儲け、発展し続けるためには、目先の利益や心の中の鬼の横暴に揺れ動かされずに、いかにカドを立てずに正しい道を進んでいけるか、つまり善行の創意工夫が求められます。

「思いやりある歯止め」を かける

経営陣の不正について見て見ぬフリをすることは、積極的に黙認しているわけであり、企業

経営の行く末を見殺しにする利己的な対応です。しかし、真つ当に正面から異論を投げかけた場合、雇用や身体が安全が脅かされるような可能性もあります。

また、部下の管理監督においても、甘やかすだけでは当然会社や本人のためになりませんし、逆に相手の心情に配慮せずにただ厳しく接すれば、萎縮したり心を病んでしまったり、あるいは重大なミス隠すような嘘を誘発させかねません。

公益通報や厳しい指導により役職員を諫めることは、誰かを有罪におとしめることでも傷つけることなく、そのままでは企業にとつても個々の役職員にとつても致命傷になりかねないような罪を犯そうとしているのを、思いやりをもって歯止めをかけるために行うものです。

先ほどの「虚実皮膚」で言えば、経営陣の悪行に対しては、「わが社の行く末を考え、さらに経営陣の方々のご家族、お子様やお孫様が、当社の問題で世間から後ろ指をさされるようなことがあつてはならないと考え、あえて申し上げます」などと、相手を大切に思うことを伝えながら諫め、相手を善行に向かわせるような工夫が必要です。

また、部下の管理監督の際に、「お前のことを疑っているからチェックするぞ!」と言われて嬉しい人などいないでしょう。「あなたのことをもつと信頼して任せたいから、チェックさ

せて」というニュアンスで接するような工夫ひとつで、お互いに気持ち良く真つ当な仕事ができるようになります。

コンプライアンスを厳密に執り行うことに異論はありませんが、その過程においては、お互いの幸せや信頼を損ねないための創意工夫が必要だと、筆者は常々思っております。例としてあげた内部通報や内部告発についても、激情に任せて行うものでもなく、人の不幸を祈って行うものでもないというのは当然のことです。

誠の道を歩むために必要な3つのこと

嘘も誠も人の道であり、悪行に手を染める人ですら、もしかすると、本当はそのようなことをしたくないのに、悪行を余儀なくされるケースがあり得るかもしれません。

最後に、皆さまが新しい年に健全な経営を進められるようにとの願いを込めて、善行への道を進む上で筆者が大切だと思う3つのことをまとめてみます。

① 一人で抱え込まず、信頼できる人に相談して心の重荷を少しでも軽くする

行き詰まったと感じたら、心の中の鬼が暴れ出す前に、まずは肩の力を抜いて、ありのままの状態で誰かに相談してみましょう。仕事仲間や経営コンサルタント、弁護士による無料法律相談など、自分が信頼できる人であれば誰でも

構いません。客観的な意見を聞けば、自分では気づかぬ工夫や対応が見えてくるかもしれません。

② 苦境も好況も不正の巣くう機会であることに留意する

苦境時には、不正であるとわかっていても、これ以外に生き残る道はないと思ひ詰めがちです。しかし、不正・悪行は、何も苦境時のみに起こしてしまうものではありません。好況時にも、例えば脱税など、つい目先の利を追いたくなりがちです。

苦境で心に余裕がない時、逆に上手く行っていて心に隙がある時、いずれも心の中の鬼が好む環境です。大切なことは、すでに自分の心には鬼が巣くっているかもしれないと気づくことです。

③ 善行を祈り、不正がばれないことを祈らない

「困った時の神頼み」という言葉がありますが、これはあくまでも、善行の道を進む途中に出くわす苦難に立ち向かう際のお話しです。

不正を押し通したいという願いを叶えてくれるのは、疫病神だけです。そして一度や二度の不正が上手く行つたとしても、一旦疫病神と仲良くなると、後は赦えない厄につきまとい、転落の一途を辿ります。

手練手管を弄するよりも、善なる思いを大切に、皆さまの新たな年に幸多かれと祈っております。

飛翔

1

2016. January

2016.1/1 vol.287

飛翔対談

宮地嶽神社

宮司 浄見 譲 氏

「日本の伝統文化を次世代へ」

日本経済の「いま」を読む

「人材確保が企業の生き残りの鍵」

東京大学大学院教授 伊藤 元重

NCB まるごとサポート

「海外リスクを取らなければ、この先の成長はありえない!」



西日本シティ銀行グループ

株式会社
NCB R&C

NCBリサーチ&コンサルティング